

牧小だより



心ゆたかに たくましく 生きぬく子

■ステージⅢで前期を締めくくっていきます。

ステージⅡの進んで考え、行動し、自分をレベルアップする「試す」期間に続き、夏休み終了後からは、ステージⅢとして仲間を大切に、お互いを「高める」ことを目指して取り組んでいます。ステージⅢのスタートは、第5波の最中でしたので制限が多い中のスタートでしたが、子供たち自身も感染予防に気を付けて生活しました。

さて、7月から毎月第2週めの1週間を人権教育強調週間として人権教育に取り組み、毎日自己評価し、その結果を可視化して児童玄関に掲示しています。9月、第2回目の強調週間でも、それぞれ目標を立てて取り組みました。1・2・3年生は、共通して、「スリッパの向きをそろえて、次の人が使いやすいようにする」と設定しました。この取組を通して、スリッパがばらばらになっていて残念だととらえる力、みんなが気持ちよく生活できるように改善したいと考える力、具体的に実行していく力の育成を目指します。今は、強調週間や取り組み目標を設けることで人権感覚を高めることを目指しますが、強調週間が設定されなくても各々の人権感覚として身に付いていくことを目指します。人権感覚とは“自他を大切にしながら気持ちよく生活するための力”とまとめ、まずは子供たちが問題意識や課題意識をもった事柄について取り組みを続けていきます。



■自慢したい、うれしくたのもしい姿。

校庭の桜の葉が落ち始める季節になりました。職員が作業をしていると、6年生の子供たちが竹ぼうきを手に走ってきます。人手が足りないだろうと、休み時間に手伝いに来てくれたのです。数回続くと、今度はそれを見ていた低学年の子供も手伝い始めました。別の日には、5年生が手伝いにきてあっという間にきれいにしてくれました。それを見ていた4年生、3年生も加わってのボランティアとなりました。うれしく、たのもしい姿です。6年生は「1年生が小さな手で何回も何回も拾っている姿がとってもかわかったし、私たちの姿を見て手伝ってくれたと思うととてもうれしくなった」と書いています。学校のリーダーである6年生は大変です。しかし、学校をリードする難しさを乗り越えるからこそ、喜びや自己有用感、満足感を実感します。この積み重ねが、中学校進学への準備となります。同時に、母校となる牧小学校にしっかりと後ろ姿を残していくこととなります。大声で自慢したい子供たちです。

■地域のみなさま、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

子供たちの登下校の見守りをありがとうございます。地域の方に見守っていただき、子供たちは安心して登下校をしています。さて、7月に行った保護者様の学校評価で、挨拶にかかわる項目の評価が低い結果となり、「校門や教師がいるときはできるが……」等の意見も教えていただいております。実は、常時気持ちよく挨拶ができる子供、会釈までしながら挨拶をする子供がいる反面、校門でも挨拶ができない子供、再度声をかけても返答しない子供がいます。マスクのせいでしょうか、コロナ禍なのでしょう。マスクを外して思い切り声を出せない現状はかわいそうですが、挨拶をすることは当たり前なこととして身に付けてほしいことです。改めて、学校での指導を推進したいと考えました。また、地域の皆様、保護者の皆様と協働しなくては改善できない課題であると認識しました。地域の皆様、保護者の皆様、力を貸してください。大人から声をかけ続け、挨拶のできる子供たちにしていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。